



姫島76% 津久見65% 国東60%

# 3市村で6割超え

## 消滅可能性自治体 若年女性減少率

2050年までの30年間に20～30代の若年女性が半減する「消滅可能性自治体」は、県内18市町村のうち10市町村が該当した。14年の前回調査と比べて1市減った。日田市と豊後高田市が脱却した一方、杵築市が加わった。将来予測が好転したのは豊後高田や由布など13市町、悪化したのは姫島など5市町村だった。

□ ……消滅可能性自治体

市町村名	総人口(人)		20～30代女性人口	
	2020年	2050年	減少率(%)	前回比(ポイント)
大分市	475,614	415,875	21.9	+6.6
別府市	115,321	84,031	28.6	+8.0
津久見市	82,863	69,547	25.5	+10.3
中津市	62,657	38,839	45.5	+6.9
佐伯市	66,851	35,779	55.1	+2.5
杵築市	36,158	19,842	52.1	+1.6
津久見市	16,100	6,800	65.4	-1.1
竹田市	20,332	9,699	54.5	+2.8
豊後高田市	22,112	15,895	38.7	+13.1
杵築市	27,999	16,456	50.4	-5.0
宇佐市	52,771	35,431	40.6	+4.0
豊後大野市	33,695	18,093	52.3	+1.1
由布市	32,772	25,542	24.2	+10.5
国東市	26,232	14,119	60.7	+6.6
姫島村	1,725	558	76.3	-10.2
日出町	27,723	23,163	23.8	-7.1
九重町	8,541	4,159	59.3	-0.5
玖珠町	14,386	7,515	58.7	+3.0

県内の将来推計人口(人口戦略会議の分析資料を基に作成)

分析によると、県内は全ての市町村で若年女性が減少する。最も減少率が大きいのは姫島村の76・3%。津久見市の65・4%、国東市の60・7%と続いた。いずれの自治体も人口流出の是正など社会減対策を求められている。さらに国東、大分、竹田など10市は出生率向上などの自然減対策にも取り組む必要性を指摘された。

津久見市は「喫緊の課題だ」と結果を重く受け止める。減少率は県内ワースト2位で、前回調査から1・1ポイント悪化した。市経営政策課は「若い女性が働く場所や生活に困らないよう施策を考える。女性に限らず、若い世代に残ってもらうことが重要」と述べた。杵築市は今回、消滅可能性自治体に分類された。市は大きな企業の撤退を理由の一つに挙げる。市企画財政課は「雇用の確保は本年度予算で重点的に取り組む。企業誘致や創業支援に力を入れたい」と述べた。

豊後高田市は前回比で減少率が13・1ポイント改善した。18年度から高校生までの医療費と中学生までの給食費を県内で初めて無料化するなど、子育てにかかる負担の軽減を進め、人口の転入超過が続いている。

佐々木敏夫市長は「何もしなければ市が消滅すると思ひ、危機感とスピード感を持ってやってきた」と手応えを口にした。

県おいた創生推進課は「発表の内容を精査したい。今後も自然増、社会増の両面から人口減少に歯止めをかける努力を続けていく」とコメントした。

(菅嶋悠、児屋野香純、松尾祐哉)

〔問①〕減少率が大きいのは姫島村、津久見市、国東市の順ですが、「消滅可能性自治体」に該当した県内の他の7市町を挙げよ。

〔問②〕豊後高田市は前回調査で「消滅可能性自治体」とされていましたが、今回は脱却しました。理由はどのように指摘していますか？

〔問③〕あなたの住む自治体の減少率は？ また減少率改善のためにすべき政策はどのようなことが考えられますか？